

平成28年度 彦根市子ども・若者会議（第2回）

平成28年9月16日 9：00～10：00

彦根市福祉センター別館2階 集団健診室

1 子ども・若者課長あいさつ

2 議事

彦根市子どもの貧困対策計画

子どもの生活に関するアンケート実態について

資料1 実態調査概要

2 アンケート調査（案）

【開会のあいさつ】

おはようございます。定刻となりましたので只今より第2回彦根市子ども・若者会議を開催いたします。

本日は大変お忙しい中、ご出席頂きましてありがとうございます。開催にあたりまして子ども・若者課長よりご挨拶申し上げます。

【子ども・若者課長】

おはようございます。平素は本市の子ども子育て支援、若者支援・福祉政策の推進・教育施策の推進につきましてご理解とご協力を賜り、またそれぞれのお立場で各種支援に積極的にお取り組み頂いていることに対しまして厚くお礼申し上げます。

また本日の第2回彦根市子ども・若者会議ですが、前回会議での委員の皆さまの議論を踏まえて、急遽開催させていただきました。ご多用の中、西川会長・高橋副会長はじめ委員の皆さまのご出席、誠にありがとうございます。また、アドバイザーの幸重先生にも前回に引き続きご出席いただき厚くお礼申し上げます。

さて前回の会議でもご説明いたしましたとおり、彦根市におきましては近年クローズアップされている子どもの貧困に対し、積極的に事業展開を図っていくことを目的とし、今年度子どもの貧困対策計画を策定する事としています。その中で計画策定を進めていくうえでの基礎となる実態調査について、3通りの調査を実施予定です。まず「保護者向けの子どもの生活に関するアンケート調査」、「関係機関に対する資源量調査」、そして「子どもへの聞き取り調査」です。本日はこの中で、前回皆さまからの貴重なご意見を頂きました

「保護者向けの子どもの生活に関するアンケート調査」につきまして、幸重先生からのご助言も頂きながら事務局において再度検討いたしました内容を示させていただきます。実施する調査が有意義なものとなるよう、再度委員の皆さまから忌憚のないご意見を頂戴したいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

【事務局】

それでは本日の会議は全委員19名うち13名のご出席を頂いており、過半数となっておりますので、彦根市子ども・若者会議条例第6条第2項に基づき、定数を満たしていることを報告いたします。

また本日の会議ですが彦根市議会開会中でもありまして、事務局は子ども・若者課と学校教育課のみとなっておりますのでよろしくお願い致します。

また最初の案内にもありましたが、会議の時間は1時間程度ということでおおむね10時ごろには終了したいと考えておりますのでご協力よろしくお願い致します。

続きまして資料の確認ですが、事前に郵送しておりましたものと本日お配りした資料2がございます。不足等ございましたら挙手をお願いします。

それでは条例第6条第1項の規定によりまして会長が議長になって頂き、議事の進行をよろしくお願い致します。

【会長】

みなさんおはようございます。大変急な会議の開催となりましたが、皆様ご都合をつけて頂きありがとうございます。

前回9月1日の会議におきまして、3つの調査のうち特にこのアンケート調査について様々なお立場から多様なご意見を頂きました。この内容ではとてもアンケートの実施が出来ないという事でした。しかし前回このアンケート調査をする意義・背景のご説明をして頂き、今回もう一度検討して頂くという事でお集まりいただきました。短い時間ではございますが皆様の忌憚のないご意見をよろしくお願い致します。

それでは次第に従いまして議事に入ります。議事1、子どもの貧困対策計画・子どもの生活に関するアンケート調査について事務局からまずご説明をお願いいたします。

彦根市子どもの貧困対策計画 子どもの生活に関するアンケート実態について

【事務局】

資料1・実態調査、資料2・アンケート調査(案)について説明

【会長】

前回の会議でご指摘を受けた部分について加筆修正を行い、かさねてアドバイザーのご

意見を頂きコンパクトにまとめたということです。

今日はここが唯一の議題ですので、今の説明でご質問やご意見などお願いします。

【委員】

事前に送られてきた資料を見て、実際にアンケートに答えるつもりで項目のチェックをしました。前回気になった所が直っている部分もありましたが、問A3「お子さんから見てあなたの続柄」は「お父さん・お母さん」でないとだめですか。「父・母」や「祖母」ではだめですか。確かに間違いではありませんが、「お父さん・お母さん」という言葉を使わないといけない理由はないのではないかと思います。

「C、世帯の状況について」の回答欄に「本人・配偶者の持ち家」とありますが、表紙には「あなた」とはアンケートに回答される方になっていますので、ここは「あなた」でいいのではないのでしょうか。

問D5費用の負担のところ「2、辞書・参考書などの教材購入費」ですが、これは本に限りますか。学校の諸経費には給食費や学級費もあります。学校では辞書も確かに売られますが、ピアノカ、笛等「みんな1人ずつ持ちましょう。」と言われると、買うお金がなくても買わざるをえない状況になります。その費用はどこの選択肢に入りますか。生活に困っている家庭はその費用が必要だとわかっていても出せないけれど、自分の子どもだけ持たさないわけにはいきません。必要なお金だと思いますので、どの項目になるのか検討して頂きたいです。

【会長】

3つのご指摘をいただきました。細部にわたって修正していく必要がありますので1つずつ行きたいと思います。最初に2ページ問A3「お父さん・お母さん」「おじいさん・おばあさん」これは「父・母」「祖父母」ということですが、表記の仕方の問題ですがこのあたりはどうでしょうか。それで行くと、兄、姉は「お兄さん・お姉さん」と言う事になります。

【事務局】

「父・母」より「お父さん・お母さん」のほうが柔らかくわかりやすいとイメージしました。答えやすいソフトな感じの質問という意味でこの表現は使っています。

【会長】

では4ページ「C、世帯の状況について」の「本人」「あなた」についてです。

【事務局】

そこは「あなた・配偶者」で、統一します。

【会長】

問D5「2、辞書・参考書」に、例えばピアノや裁縫セットや体操服など、教材の一例を文面に挙げてみてはいかがでしょうか。

【事務局】

例として「辞書・参考書・ピアノ等の教材費」というように挙げてみようと思います。

【会長】

書籍以外の例を挙げるということですね、わかりやすくなると思います。

【委員】

今の件ですが、ご指摘いただいたのは副教材や、ピアノなどの教材等学校ですぐ必要なものですが、1はある程度必要であるもの、2も教材購入費と書いてあるので、学校でどうしても必要なものかなというイメージがあり、混乱する気がします。学校で必要なものは学校の諸経費で、それ以外は学習用品費、という分け方ではダメなのでしょうか。

【アドバイザー】

「給食費などの学校の諸経費」というのは毎月の集金です。それは何に使われているかという給食費や、例えば理科の実験セットなどそういう所に使われています。滞納していても実験セットは配られますし、給食は食べさせます。2番の「辞書・参考書などの教材購入費」は辞書・参考書という言葉だけが走りすぎて、その他に買わないといけないものがあります。ピアノもそうですが、これは準備できない家庭と準備できる家庭があります。例えば習字道具を準備できない家庭は、習字道具を持たずに学校に来ます。そうすると学校の対応によって変わりますが、学校によっては貸し出し用セットを準備していますが、それが無い学校では「おまえいつも忘れてるな」となり習字がいつも参加できません。2番の質問はそういう費用を払うのが可能かどうかというところに意図があります。

この調査は最終的にこの後の計画策定に関係してくると思います。その中で 給食費・学校諸経費というのは前回の会議でも、例えば「長浜市では給食費を一律で無償にしている」という話がありましたが、これは行政としてはやりやすいと思います。その他に買わなければいけないけれど実は困っている保護者がいるのであれば、行政としてどうサポート出来るか、または行政でサポートをしなくても民間の力を借りることで、こういうものが揃わない家庭には何か行き渡るようにしていくという事も参考になるのかな、という区分けをしています。

【委員】

それは、習字セットという文言の方がイメージがわかりやすいです。

【アドバイザー】

小学5年生と中学2年生が対象のアンケートなので、その学年の子に響く文言がいいと思います。

【委員】

問A5は答える方が10歳代で兄弟がいる場合を想定された問題ですのでこういう風に書かれたのかなと思いますが、よく考えたらこのアンケートに答える方は保護者ですので「父・母」の方がいいと思います。それと設問の「宛名のお子さん」の「宛名」はいりませんか。

【会長】

回答欄の「お父さん・お母さん」は、回答するのは保護者ですから小学5年生、中学2年生とはいえ「父・母」がいいと思います。

次に宛名というのは、ありません。

7ページの間D5の2、例に習字セットを挙げるというご意見は、購入しなければいけないものを本だけではなくその他必要なものも例として挙げるというご意見です。

【委員】

7ページ、問D5に医療費の負担という項目を入れてはどうでしょうか。問D4では病院や診療所を受診しなかった理由として「医療費を支払うことが難しいため」とあります。小学生は医療費の無償化をしているところがありますが、通院したけれど医療費の負担が大きいと感じるということもありますので、医療費の負担を入れてはどうかと思いました。

【委員】

私は前回欠席したので十分理解ができてないので違うことを言うかもしれませんが、子どもの貧困を調べるのが目的なのであれば、給食を栄養源にしている子どももいますので、Dの間には医療だけでなく衣食の質問項目もあった方が良くはないでしょうか。

どういう分析の仕方をするかによりますが、関係項目だけを抽出して今の本当の貧困を分析していく必要があると思います。また家族構成も必要だと思います。家族構成がわからずに本当の貧困は分析できず、統計が取れないと思います。

もう1点Bの学習への間について、この子たちの学習する部屋、質、時間帯に関する質問項目もあれば良いと思います。しかし一番大切なのは分析解析方法だと思います。

【会長】

分析解析については色々な項目をクロスにかけていく形になると思います。その辺りはプロにお任せすることになると思います。

3つご指摘を頂いたのは先ほどのご意見と合わせて、問D5に医療費や衣食についての負担の項目を入れてはどうかという点で、家族構成ということですが、世帯の人数を聞くだけでは不十分ということですか。父や祖父などの内訳という事ですか。

【委員】

問C4のお父さんお母さんの帰宅時間について、母子家庭でお母さんがダブルワークをしている場合の配慮が無いと思います。だから構成からクロスをかけて見ていくのか、構成なしでクロス集計をして見ていくのか、集計の方法によるという事です。

【会長】

人数ではなくどういう構成であるかという事を知るとい事、そして学習時間もやはり必要ではないかという3つの点でアドバイザーの幸重先生にご意見を頂きたいと思います。

【アドバイザー】

1点目は前回参加された方は私から説明させて頂きましたが、結局このアンケート調査で貧困実態の調査はできません。それをわかった上で調査する事に、前回議論があり指摘されました。

貧困の実態、どれだけ苦しいのかを調査分析することは、すでに先行でされている研究の中からは「使えない」ということで省いています。ですから貧困実態に迫るような内容をカットしました。

前回のアンケートは16ページに渡る調査項目があり、回答してくれるのは余裕のある層のみで、おそらく聞きたい層には回答してもらえないと思います。前回は家族構成も入れていましたが削除しました。

この手の郵送アンケート調査で効果があるのは、調査を基に計画を作る時に、どのようなニーズがあるか実態や効果があるのかについて、そこを前回アドバイスさせて頂いたのでそれを踏まえた内容になっています。

勉強時間についてもどれだけ勉強しているのか聞きたいですが、結局しんどい家庭はなかなかこのアンケートに答えにくいですし、そうすると回答してくれるのは勉強時間をしっかり押さえた家庭ばかりで、これを基に考えてしまうとまたそれも数字の一人歩きになります。ただ色々なご家庭、貧困もそうですし、そうでなくてもお金の部分でどのようなサービスを行政に対して期待しているか、民間に肩代わりしてほしいかを、答えられるようなアンケートにしたいと思います。

【会長】

今のお話ですとかなりボリュームを下げて書きやすく、まず回収できるということを目的としている事と、それから貧困の実態について、なかなか有効なものが得られないという事が全国的に見られます。衣食や医療も入れたいところですが、項目を減らすために家族構成も学習時間についても削除し、彦根市のニーズをしっかりと探っていくアンケートを作成したというご説明でした。

【アドバイザー】

その点で言えば先ほどの医療費について、実際経済的に負担を感じているかを聞くことは大丈夫だと思います。

例えば着る物や食事と言う結果が出た場合に、行政から家庭へ食事のサポートや衣服を確保するなど、結果を生かす事は難しいと思います。なるべく活用できる回答をしやすい様にそれらの問題は削ったほうが良いと思いました。

【会長】

アドバイザーからは施策に関わるものとするならば、医療については無償化できる事がありますので、そのあたりは項目に入れても良いかも知れないという事です。

【委員】

問D5の「あてはまる番号すべてに○」ですが、私が考えると、当てはまると言えば当てはまるという事で○をしていくと、全部になってしまいます。トップ3を選ぶほうが思いは反映されるのではないのでしょうか。

【会長】

いくつくらいが良いですか。確かに全部といわれれば全部に○をしたくなります。どの辺りに負担を感じているかと言うのを抽出するならば3つという手もあります。

【事務局】

実はここにつきましては、仮に上位3つとすると、4つ目はもう要らないのかということにもなります。やはり本当に困っているのであれば困っていると表示してもらう方がいだろうと考え、基本的に「いくつまで」というのは外しました。実際お困りであればこういう形で意思表示をして頂きたいという思いで作っています。全部○がつく可能性もあります。困っているのであればすべてに○をしてもらったらニーズとして把握が出来ますのでそれで良いと考えています。

【会長】

全部は○をされないかもしれませんが、そこを大事にしたいということですか。

【委員】

少なくとも問D 5の選択肢4は必要ないと思います。

【アドバイザー】

成長期なので1年でグンと伸びます。新しく新調をする事はないが、議論のひとつではあります。1人で子育てをされている方にとってはここに○が付くと思います。この負担ができないのかなと考えられます。

【委員】

「D暮らしの状況について」の問D 1の10の急な出費のための貯金(5万円以上)には何か基準はありますか。

【事務局】

参考にしたのは足立区で先行的に5万円とされていますので比較しやすいと思いました。あと現実的に5万円をすぐに準備出来るかということ、実態を把握するにあたり、具体的に良い数字だと考えたものです。

【会長】

項目がそろっていると比較がしやすいのは確かです。

【委員】

問B 3「次のような事業があれば利用しますか」について、大事な事ですが学習面の項目が多く、例えば回答される方にとってはお仕事のためのナイトケアやトワイライトその時間のケア等、居場所づくり等に関する項目も必要ではないでしょうか。

【委員】

問B 3の3は異質な質問です。Bの1、2、4、5は子どもの実態を調査すると言いながら、3は親の希望を聞いています。この質問は最後のEではないでしょうか。

【会長】

そうすると問E 3の「重要と思う支援」の中に入ってくる感じですか。B 3は学習に焦点を絞っている様です。

【事務局】

Bは「お子さんについて」とありますが、問B2のように学習について聞いてみたいという思いで問B3の質問を残しました。トワイライト等については問E2の1で、「保護者が家に居ない時に子どもが安心して過ごす場所やサービスの提供」という形で、ニーズを掴みたいと思っています。B3については学習だけに絞り、主要施策というかたちでこれから展開していく中で聞きやすいと思いつけています。

【アドバイザー】

この調査は、基本的に施策と意図と要望が結びついているかを調べるものです。学校の放課後や土曜日におけるサポート、公民館を使った学習の場は、NPOを含め彦根市で行われています。地域の方にもニーズがありますので、より税金や人を投入し公民館などを利用しNPOや行政、民間団体からの応援を広めていくのか、または大阪府のように、行政直轄で勉強を見たり学校の放課後学習を充実させたりというよりも、勉強は勉強専門の所で見てもらいたいというニーズが多ければ、民間団体をお願いするか、民間の塾に付けるようなクーポンを配布するなどの方策の方が良いのではないかと思います。

たしかにこの設問がBの中にあることにはいびつさを感じました。私達も取り組んでいる夜の居場所や休みの居場所に関しても、実際に彦根市の中で進めて行けそうな事があれば、調査項目を分けて詳しく調査しても良いかもしれません。また次の段階でニーズを元に問E2-7のいわゆる子ども食堂を意識した「子どものみで無料もしくは低料金で食事ができる場所の提供」も施策として考えられるかなと思います。いろいろ盛り込むこともいいですが、すでに彦根市の中でかなり関連したことをやって頂いているので、まずはここをより充実させるためのデータになれば良いと言う意図のある設問となっております。

【会長】

このあたりが今回のアンケートで重要な部分ではありますが、しかしまた細かくしすぎるとボリュームが増えるという事です。Bはどうしたらいいですか。今の話でBは異質なのでEの中に入れていくという可能性もあります。

【事務局】

やはり学習に関して聞きたいので、例えばですが問B3のタイトルに「お子さんの学習に関して次のような事業があれば利用しますか」という一文を加えて学習の流れで書いてもらうような形にはどうでしょうか。Eのほうに入れてしまいますと、埋もれてしまう気がします。

【会長】

願っておられる方が多いので学習でまとめていきましょう。

かなり整備されてきましたがいかがでしょうか。

【委員】

まだ完成形ではないのでルビの抜けているところが多いです。

【事務局】

最終的には全てにルビをつけさせていただきます。

【委員】

問B6「お子さんは夕飯を誰と食べることが多いですか」について、回答に「6その他」の項目がありますが、問A5で家族構成について聞いているのであれば、ここに「おじ・おばなど親族」も入れてはどうでしょうか。また片方の親と兄弟が食べる事もあります。一人っ子の場合は1人ですが、そうすると項目をたくさん作る必要があります。全員の続柄を教えてくださいと聞いているのであれば「父・母・兄・弟・等」の項目を作り○をつけてもらうのも1つの案ではないでしょうか。

【事務局】

この目的は兄弟だけで食べているか、1人で食べているかを知りたいので、それ以外や大人と食べている場合は「その他」として整理します。

【会長】

要するに子どもだけで食べているか大人がいるかということですか。

【委員】

それでしたら選択肢が狭まってしまい、何の調査をしているのかなと感じます。たとえばA5をそのまま使って誰と食べているかに○をしてくださいというのはどうでしょう、その場合1人で食べる項目を入れないといけなくなります。

【会長】

A5のものを使いながら、1人で食べる事もわかるようにお願いします。

【委員】

問C4と4の1について、お父さんお母さんのおられない方への配慮、表現はこれでいいのでしょうか。

【事務局】

ここはひとり親であれば「お父さんはいない」「お母さんはいない」という選択肢になっています。お父さんもお母さんもいらっしゃらない方の場合ですね。

【委員】

回答される方、おじいさんおばあさんの場合もあると思います。家にお父さんお母さんがいないご家庭もあります。

【会長】

つまりお父さんお母さんがおられなくて祖父母が育てておられる方は、ここは回答しなくていいと理解していいですか。

【委員】

あなたの家庭で働いている方についてお聞きします、として3つほど枠を作り、括弧に「父」や「祖父」等の続柄を記入する。またはお父さんお母さん以外にもう1つ枠を作りそこに続柄を書いてもらうのはどうでしょうか。答えやすくなると思います。

【委員】

C4の1は子どもたちと接する時間を聞きたいのではないかと解釈していますが、どうでしょうか。

【アドバイザー】

夜、子どもたちが1人での状態があるかどうかをトータルに聞いて、市としてそういうサービスを打っていくかというところに結びつくと思います。

【会長】

そうすると子どもに関わる大人がどの時間帯に帰ってくるか、どういう働き方をしているかというのが重要になります。

父母その他で続柄を書いてくださいと失礼のないような書き方で、枠を3つにして子どもに関わる大人の働き方が描き出せるようにお願いします。

いろいろとご意見をいただきました。今回は項目を整理して頂きました。細部にわたっての修正は必要です。今日のご意見を反映しお任せしますは難しいと思います。しかし再度の委員会の開催までは必要ないと思います。もう一度文書で修正案を配布して頂き、最終的に確認したいと思います。

【事務局】

そのようにさせていただきます。また郵送で送らせていただきますので、ファックスや電話でお返事いただければと思います。

【会長】

またそこで修正意見を頂いた場合は、事務局で対応して頂き一任ということでよろしいでしょうか。

では修正意見をまとめて頂き、その修正については事務局一任でお願いします。

事務局、何かありますでしょうか。

【事務局】

今回頂きましたご意見を踏まえまして、また改めて郵送でアンケート案を送らせて頂きます。その後、極力速やかにアンケート実施させて頂きまして、アンケート結果がまとまり次第また会議で皆様のご意見を頂きたいと思えます。先ほどもありましたが 分析が大事だと思えます。学校からの聞き取りなど総合的なかたちで貧困、どの様な実態があつてどういった支援が必要かという分析をまたお願いしたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

【子ども・若者課長】

前回はアンケート調査自体がどうかという意見も頂いていましたが、施策に結び付けていくような項目に絞ったアンケートをし、分析をしっかりとすること、その政策展開が図れる様に考えて行きたいと思っています。

急遽の開催にも関わらずお集まり頂きありがとうございます。今後ともよろしくお願ひ致します。